

令和7年度水産研究所研究成果発表会について

水産研究所では「豊かな海・川の実現と魅力ある水産物の消費拡大」を目標に、水産資源の回復や養殖業の安定を図るための調査研究に取り組んでいます。その成果を広く県民の皆様を紹介するため、令和8年3月18日に研究成果発表会を開催したところ、漁業関係者をはじめ、教育関係者や企業の関係者など幅広い分野から約70名の参加がありました。

発表会では、3課題の口頭発表を行いました。

「戦前における海洋観測の実施状況と100年間での透明度の変化」では、当所が大正7年(1918年)から実施する船舶による海洋観測の歴史と、100年間における透明度の変化について報告しました。

続いて、「資源評価調査からわかったサワラのサイズおよび漁獲時期の変化」では、近年の海洋環境の変化がサワラのサイズや漁獲時期に与える影響について報告しました。

最後の「旭川下流域におけるアユ資源の状況と資源回復の取組」では、海から遡上する天然アユの生息尾数の推定方法や資源回復に向けた産卵場造成等の取組について報告しました。



写真1 口頭発表の様子

また、会場後方ではポスター発表も実施しました。「増えた魚・減った魚」、「岡山県海域で実施可能なガラモ場の再生手法の検討(令和7年度の取組)」、「水質環境とマガキ成長との関係解明」についてポスター形式で発表し、休憩時間等を利用して担当者から参加者が説明を行いました。



写真2 ポスター発表の様子

参加者に対して実施したアンケートでは、戦前のデータが残っていることへの驚きや、藻場関連の取組を毎年楽しみにしているとの声、専門的な部分がかみ砕いて説明してほしいなどのご意見のほか、藻場造成・再生手法に関する研究要望もいただきました。

発表会にご参加いただいた皆様の意見や要望を踏まえ、本県水産業がさらに発展するよう現場の課題解決に資する調査研究を推進し、今後より一層水産研究に対する理解や関心を深めていただけるよう情報発信に努めてまいります。(栽培・資源研究室 榎東)